



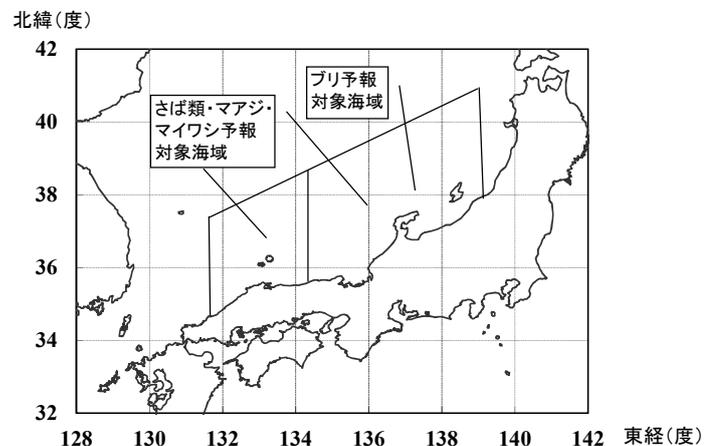
## 2020年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(2020年11月～2021年3月)のポイント

#### 漁況(来遊量)

- (1) さば類(島根県～新潟県)  
前年を下回る
- (2) マアジ(島根県～新潟県)  
前年並
- (3) マイワシ(島根県～新潟県)  
前年並～下回る
- (4) ブリ(兵庫県～新潟県)  
0歳魚は前年を下回る  
2歳以上魚は前年並



※「前年」は2019年11月～2020年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：管理部門 永澤、後藤

浮魚資源部 西田、久保田、松倉、古川

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/>

## 2020年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2020年11月～2021年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）  
0歳魚（2020年級群）と1歳魚（2019年級群）が主体、来遊量は前年を下回る
2. マアジ（島根県～新潟県）  
0歳魚（2020年級群）と1歳魚（2019年級群）が主体、来遊量は前年並
3. マイワシ（島根県～新潟県）  
1歳（2019年級群）以上魚が主体、来遊量は好漁の前年並～下回る
4. ブリ（兵庫県～新潟県）  
0歳魚（2020年級群）：前年を下回る  
2歳（2018年級群）以上魚：前年並

※「前年」は2019年11月～2020年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

### I 予報の説明

漁況の経過（2020年1月～9月）および今後の見通し

#### 1. さば類（図1、図2）

##### ●2020年1月～9月の経過

島根県～新潟県の主要港におけるさば類の漁獲量は、近年では2011年～2012年、2014年～2019年で多く、2010年と2013年で少なかった。1月～9月の漁獲量は、2018年に2001年以降で最大の44,200トン、2019年では23,200トンであったが、2020年では12,800トンで、前年同期の55%、過去5年（2015年～2019年）平均（26,100トン）の49%となった。

2020年漁獲動向を海域・漁法別に見ると、全体に占める割合が最も大きい鳥取県および島根県（両県ともまき網）では、主漁期（1月～4月）の漁獲量（5,200トン）は前年同期の31%、過去5年平均の29%で、5月～9月（2,600トン）は前年同期の113%、過去5年平均の64%であった。中部以北（主体は石川県と新潟県）におけるまき網などでは、1月～4月の漁獲量（1,000トン）は前年同期の91%で過去5年平均の128%、5月～9月の漁獲量（2,000トン）は前年同期の157%、過去5年平均の163%、1月～9月の漁獲量（3,000トン）では前年同期の128%、過去5年平均の146%であった。兵庫県以北の定置網における1月～9月の漁獲量（2,000トン）は、前年同期の108%、過去5年平均の104%であった。

##### ●資源状態と年級群の豊度

「2020年度 第1回 対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁況予報」（水産研究・教育機構）によると、マサバ対馬暖流系群の年級群ごとの豊度は、2018年級群および2019年級群の豊度はそれぞれ前年の年級群の豊度を下回るとみられる。また、2020年級群は2019年級群を上回る可能性がある。

##### ●今後の見通しについて

本海域の漁獲量は鳥取県および島根県のまき網の占める割合が大きく、11月～3月には0歳魚と1歳魚が漁獲の主体となる。年級群豊度について、0歳魚（2020年級群）は前年を上回る可能性があるものの、1歳魚（2019年級群）は前年を下回ると推測され、9月までの漁況が前年を下回っているため、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

## 2. マアジ (図3~図5)

### ●2020年1月~9月の経過

日本海のマアジは主にまき網と定置網によって漁獲されており、2002年~2019年における島根県~新潟県の主要港における漁獲量は、20,800~68,300トンの範囲で推移した。2014年以前は40,000トンを越える漁獲があったが、2017年以降は30,000トンを下回り減少傾向にある。1月~9月の漁獲量は、2020年に14,100トンで、前年同期(18,600トン)の76%、過去5年(2015年~2019年)平均(26,300トン)の63%となった。

### ●資源状態と年級群の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系群の一部である。漁獲の動向は同系群の資源状態と密接に関わっており、0歳魚と1歳魚が主に漁獲される。新規加入する0歳魚を主対象として、2003年以降、日本海西部海域にてマアジの新規加入量調査を実施しており、その結果からマアジの加入量指標値(来遊の多寡)を算出している。来遊量の多かった2003年を1としたとき、2020年は1.35(暫定値)で2019年を上回り2020年級群の豊度は2019年級群並もしくは上回ることが推察された。

### ●今後の見通しについて

予報期間(11月~3月)における日本海では、例年0歳魚と1歳魚が主体で2歳以上魚も漁獲されている。2020年の加入量指標値は前年を上回り、0歳魚(2020年級群)の豊度は1歳魚(2019年級群)並もしくは上回ると予想される。「2020年度第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」(水産研究・教育機構)によると、1歳魚(2019年級群)の豊度は前年並、2歳魚(2018年級群)の豊度も前年並とみられる。一方、2020年1月~9月の漁獲量は前年を下回った。以上のことから、予報期間における0歳魚および1歳魚の豊度は前年並、2歳魚の豊度は前年並と考えられ、来遊量は前年並と予測される。

## 3. マイワシ (図6、図7)

### ●2020年1月~9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は2010年までゆるやかに増加傾向を示していたが、2011年に急増し30,000トンを越えた。以降、20,000トン以上の漁獲となる年が多いが、2014年で3,700トン、2019年で13,100トンと、少ない年もあった。2019年1月~9月の漁獲量は12,700トンと、2001年以降で2番目に少なかったが、2019年11月~翌年3月の漁獲は23,100トンと、過去3番目に多かった。2020年冬春季では2月から来遊があり、3月に近年の中でもかなり高い水準の来遊があり、漁獲量は月を経るに従い減少したものの、1月~9月の漁獲量は54,100トンで、同期の漁獲量としては2002年以降で2番目に多かった。

### ●資源状態と年級群の豊度

「2020年度第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」(水産研究・教育機構)によると、マイワシ対馬暖流系群の年級群ごとの豊度は、1歳魚(2019年級群)は2018年級群を下回り、0歳魚(2020年級群)は2019年級群を上回ると考えられる。なお、令和2年度のマイワシ対馬暖流系群の資源評価では、2019年の資源量は2018年より多く、過去5年の親魚量の推移は増加傾向である。

### ●今後の見通しについて

例年、予測期間の中で漁獲が多いのは2月以降で、2歳以上魚の産卵親魚を主体に1歳魚も漁獲される。資源量および日本海での漁獲量は増加傾向であるが、2018年11月~2019年3月の漁獲は極めて少なくなるなど、来遊は不安定であり、漁場への来遊の多寡は海況にも大きく影響されると考えられる。現段階で得られる日本海の海洋環境の予測は、10月中旬~12月では対馬暖流域の表面水温は平年並、対馬暖流域の50m深水温は日本海西部でやや高めとの予測であり(2020年度第3回日本海漁況予報、水産研究・教育機構)、1月以降の海況は予測されていない。以上の情報から、資源の状況をもとに、今期の来遊は好漁であった前年並~下回る程度と予測される。

## 4. ブリ (図8~図10)

### ●2020年1月~9月の経過

2000年~2019年における兵庫県~新潟県の主要定置網の年間漁獲量は5,000~12,200トンで、2014年(11,000トン)以降は2018年(5,300トン)まで毎年減少を続けていたが、2019年は8,300となっていた。1月~9月の漁獲量は2020年に5,400トンで、前年同期(5,600トン)の96%、過去5年(2015年~2019年)平均(5,500トン)の99%であった。

2020年の年齢別の漁況経過をみると、0歳魚の漁獲量(7月~9月)は400トンで、前年同期(1,300トン)の28%、過去5年平均(900トン)の43%であった。1歳魚の漁獲量(4月~9月)は2,500トンで、前年同期(1,400トン)の181%、過去5年平均(2,100トン)の116%であった。2歳(2018年級群)以上魚の漁獲量

(4月～9月)は1,900トンで、前年同期(1,700トン)の108%、過去5年平均(1,500トン)の122%であった。

●資源状態と年級群の豊度および今後の見通しについて

2020年級群である7月～9月の0歳魚の漁獲量は前年を下回ったことから、11月～3月の0歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

1歳魚(2019年級群)の予報対象海域における主漁期は4月～8月であり、予報期間中の漁獲量の過去5年平均は200トン(範囲は100～300トン)であるため、予測対象から除外した。

2歳(2018年級群)以上魚の4月～9月の漁獲量が前年並であったため、11月～3月の2歳以上魚の来遊量は前年並と予測される。

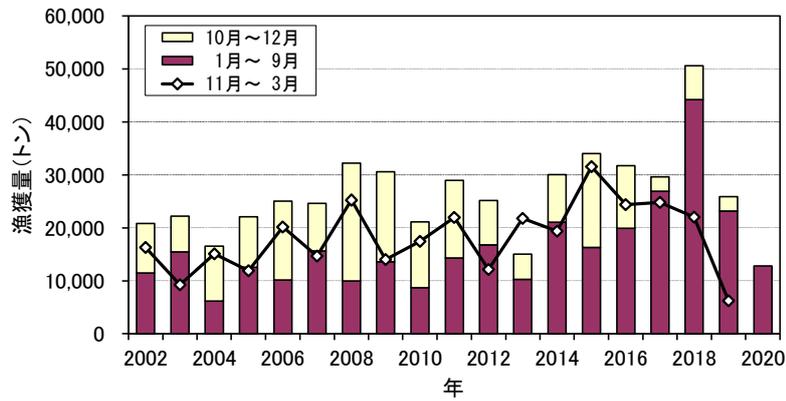


図1 島根県～新潟県におけるさば類の漁獲量の推移（2020年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

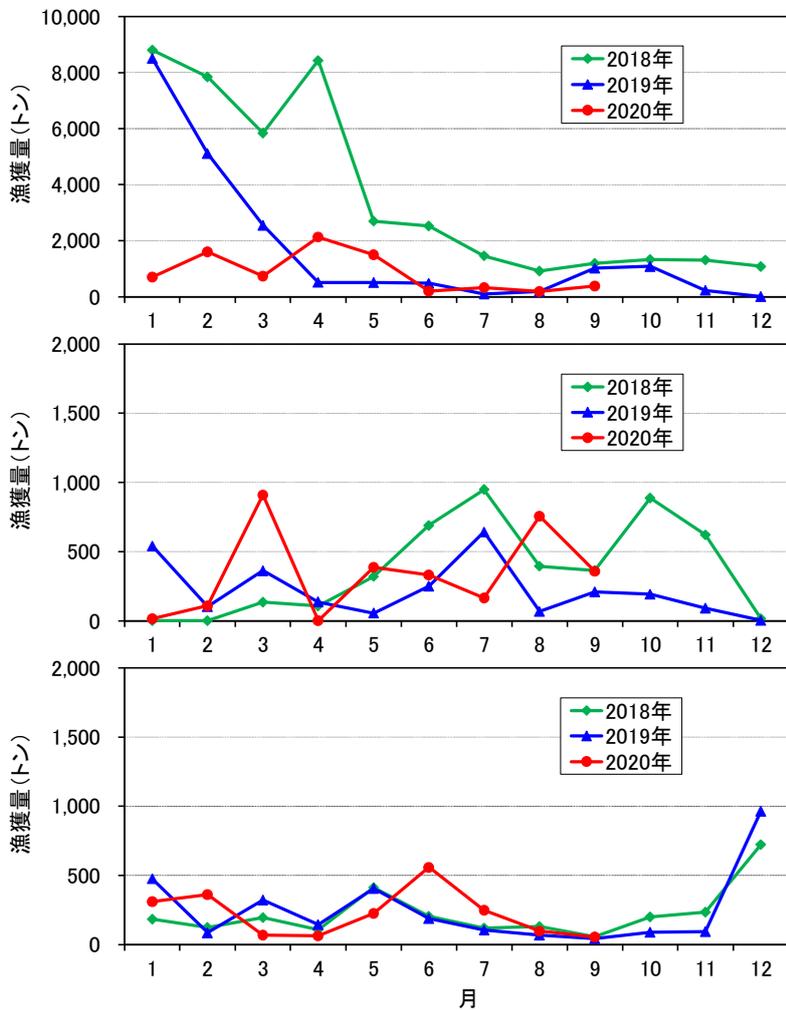


図2 2018年～2020年におけるさば類の月別漁獲量の推移（2020年は9月まで）  
上：島根県～鳥取県（まき網）  
中：兵庫県～新潟県（まき網ほか：定置網以外を集計）  
下：兵庫県～新潟県（定置網）

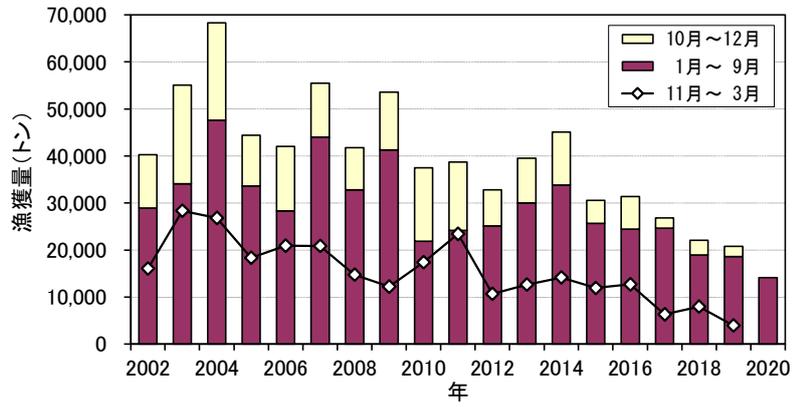


図3 島根県～新潟県におけるマアジの漁獲量の推移（2020年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

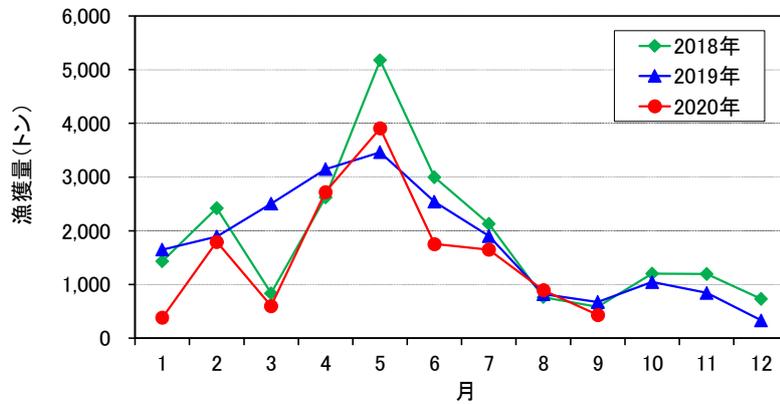


図4 2018年～2020年の島根県～新潟県におけるマアジの月別漁獲量の推移  
(2020年は9月まで)

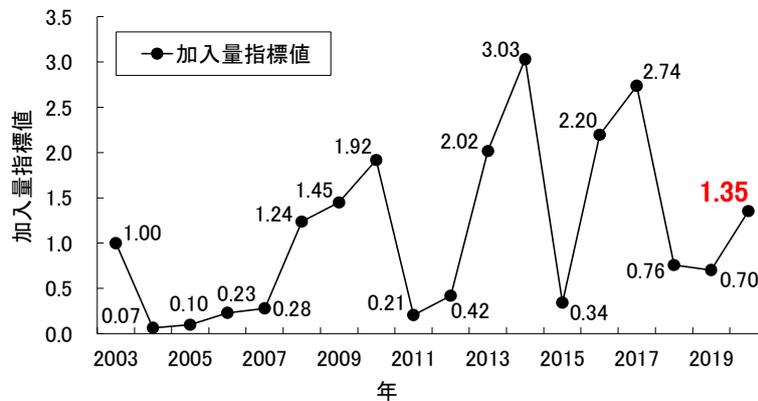


図5 新規加入量調査によるマアジ加入量指標値の推移（2003年を1とした）

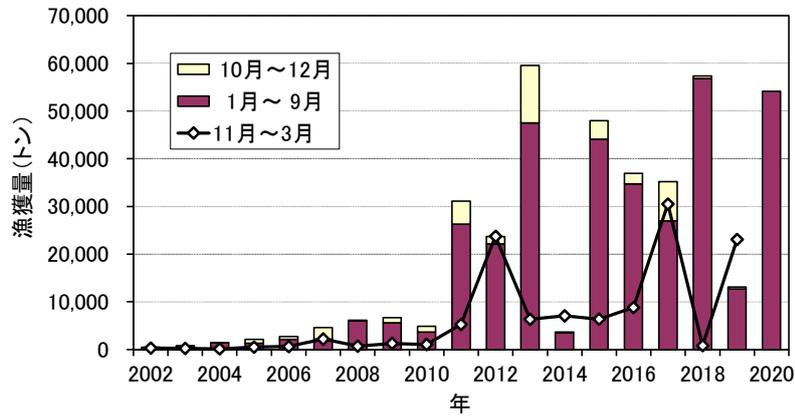


図6 島根県～新潟県におけるマイワシの漁獲量の推移（2020年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

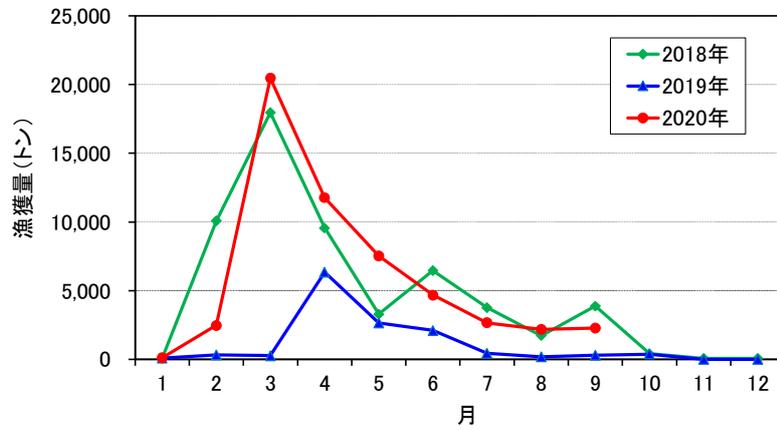


図7 2018年～2020年の島根県～新潟県におけるマイワシの月別漁獲量の推移  
（2020年は9月まで）

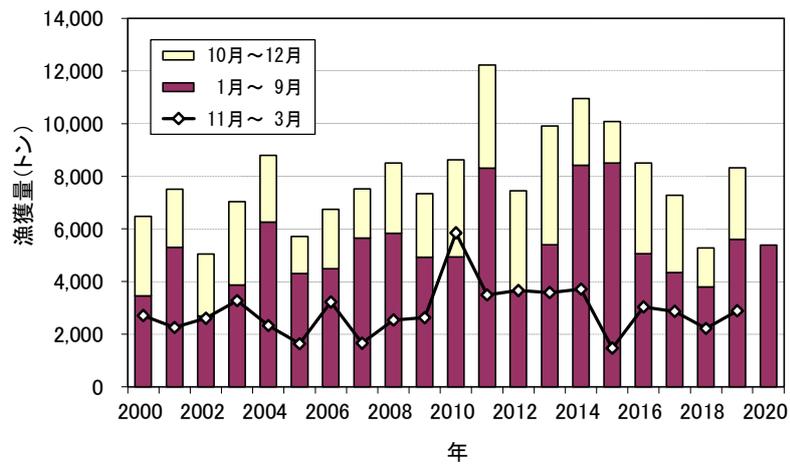


図8 兵庫県～新潟県の主要港におけるブリの定置網漁獲量の推移（2020年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

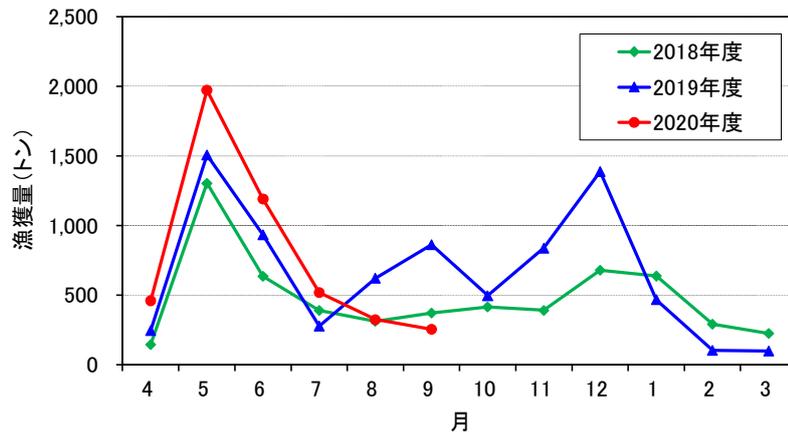


図9 2018年度～2020年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移 (2020年度は9月まで)

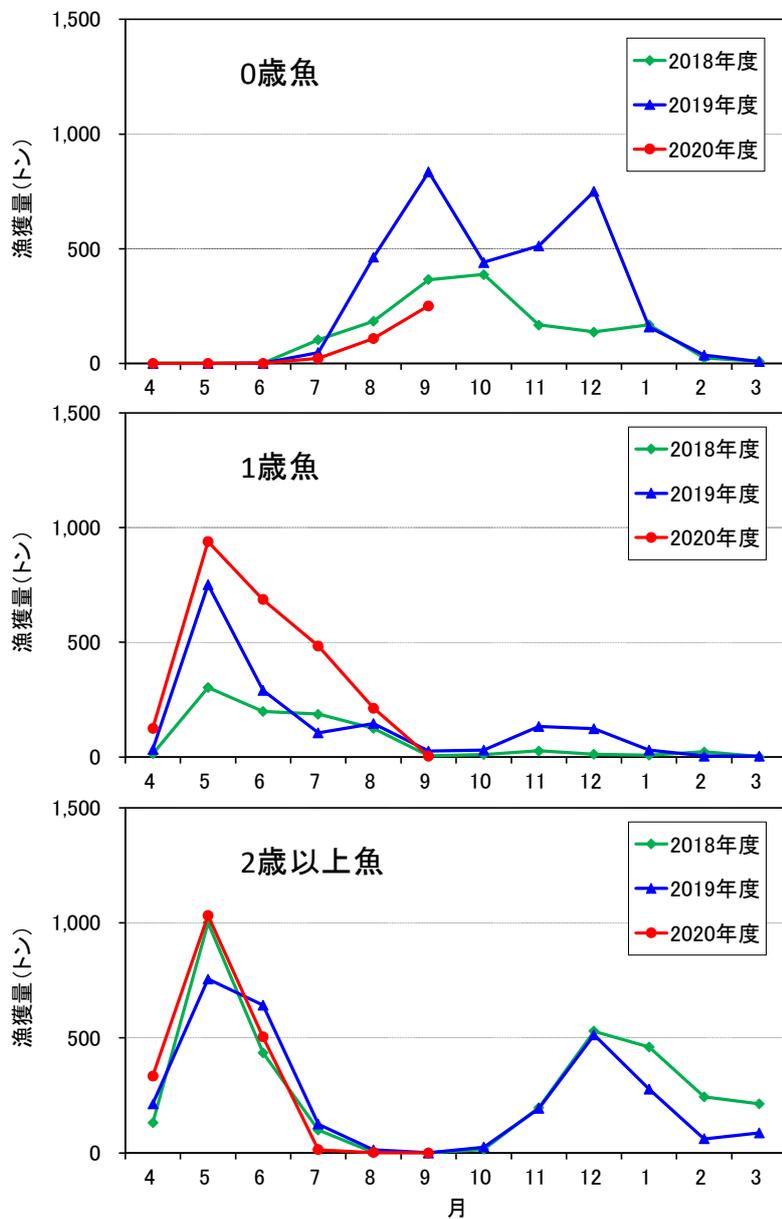


図10 2018年度～2020年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移 (2020年度は9月まで)

## 参 画 機 関

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 地方独立行政法人<br>青森県産業技術センター<br>水産総合研究所 | 京都府農林水産技術センター<br>海洋センター                    |
| 秋田県水産振興センター                        | 兵庫県立農林水産技術総合センター<br>但馬水産技術センター             |
| 山形県水産研究所                           | 鳥取県水産試験場                                   |
| 新潟県水産海洋研究所                         | 島根県水産技術センター                                |
| 富山県農林水産総合技術センター<br>水産研究所           | 一般社団法人<br>漁業情報サービスセンター                     |
| 石川県水産総合センター                        | (取りまとめ機関)<br>国立研究開発法人 水産研究・教育機構<br>水産資源研究所 |
| 福井県水産試験場                           |  |